「とっとり評判記」

なんでも

第18話

鳥取大震災

智頭街道の被害状況

救援にあたる人々

建設中の仮設住宅

写真は、芦村豊志・鷲見貞雄『鳥取の災害　大地震・大火災』（昭和 63 年、鳥取市社会教育事業団より）

こだまちゃん：わあ、ひどい！ここはどこの町？

やまびこ博士：ここは、大震災直後の鳥取の町だよ。向こうに見えるのは久松山、こっちの川は旧袋川さ。

こだまちゃん：山がなかったら、全然わからないわね。

やまびこ博士：阪神大震災を上回る規模の地震が鳥取地方を襲ったのは昭和１８年９月１０日のこと。

こだまちゃん：あちこちで煙が上がっていますね。

やまびこ博士：ちょうど夕食時（午後５時３６分）だったために、炊事の火が燃え広がったりもした。

こだまちゃん：ちゃんと建っている建物はほとんどないわね。

やまびこ博士：このとき、市街地の建物は、全半壊あわせて８割ほども倒壊したと言われている。

こだまちゃん：こわーい。昔の建物でも、下敷きになったら押しつぶされちゃいますね。

やまびこ博士：上級武士の屋敷や寺院など、比較的頑丈な地盤の上に建てられていた家も、かなりの被害を受けた。それ以外の地域は、もともと湿地帯だった久松山の麓（ふもと）を、江戸時代に埋め立てて作られたものだったため、より大きな被害が出てしまった。

こだまちゃん：江戸時代に商家の多かったところは、道が細くて建物が密集していたから、特に被害が大きかったのね。

やまびこ博士：結局、死亡者１，２１０人を数え、無事だった人々も、多くが家を失って路頭に迷った。

こだまちゃん：食べるものや着るものにも困ったのね。

やまびこ博士：もちろん、現代と同じように、いろいろな援助の手は差し伸べられたけれど、その頃、日本は太平洋戦争のまっただ中だった。そのため、災害救助も、復興支援も、充分には得る事ができなかったんだ。復興事業として仮設住宅の建設や道路の拡張などが行われたけれど、臨時のものが多かった。このとき充分な対策ができなかったことが、９年後の鳥取市大火災にも影響したと考えられている。

こだまちゃん：災害だけでなく、戦争中だったことが、鳥取のまちに不幸をもたらしたのね。

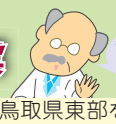
やまびこ博士：こういった不幸を繰り返さないためにも、日頃から災害に備えることが大事だし、平和な世の中が続く事を祈りたいね。

【佐々木孝文（鳥取市歴史博物館学芸員）】

やまびこ館ギャラリートークのご案内

《やまびこ博士とタイムスリップ》

とっとりの大地震



やまびこ館へ Goじゃ！

昭和 18 年（1943）９月 10 日の夕方５時、鳥取県東部を大きな地震がおそいました。鳥取の市街地を中心に 5000 人の死傷者を出すなど、その被害はとても大きなものでしたが、この災害をきっかけに、鳥取のまちづくりは大きく進みました。この災害のいろいろな面について、60 年以上たった現在、このやまびこ館でみなさんとお話ししたいと思います。

■と　き　９月 25 日（土）・26 日（日）
　　午後３時 30 分～（30 分程度）
■ところ　やまびこ館　常設展示室「災害と復興」コーナー
■参加料　入館料が必要　一般 500 円
　　（高校生以下と 70 歳以上の人は無料）
■問い合わせ先　やまびこ館（上町 88・☎ 23-2140）

編集／鳥取市企画推進部秘書広報課広報係（☎ 20-3159）
印刷／綜合印刷出版株式会社